

【事業報告書】

実施年度	2015 年度	担当部署	北海道支部
------	---------	------	-------

I. 大会、セミナー等の開催（1 号事業）

(1) 支部大会の開催

名称	2015 年度北海道支部大会
日時	平成 27 年 7 月 4 日
場所	ニセコ町（ニセコ町民センター）
目的	大学英語教育及び関連分野の理論、その実践に関する調査・研究の発表を行うことを目的として実施した。
対象	支部会員・その他の英語教育関係者および英語教育に関心のある者
規模	90 人程度
広報	1) 支部会員に対しては支部ホームページを通じて広報を行った。 2) 支部以外の会員とその他の英語教育関係者に対しては、支部ホームページと英語教育関係の他団体・組織のメーリングリスト等を通じて行った。
内容	1. 基調講演 「CLIL/CBLT が育む英語教師のこころの変化」 笹島 茂（東洋英和女学院大学教授・JACET 理事） 2. 講演 1) 「Niseko, English and Social Mobility」 Julian Bailey (SMiLE Niseko Language School/ Hokkaido Exam Centre affiliated by Cambridge English Language Assessment) 2) 「The Hospitality and Tourism Industry in Niseko」 John Barton (Niseko Management Service) 3. 研究発表 1) 「地域の企業や関係機関と連携したグローバル人材育成に向けた取組」 白鳥 金吾（北星学園大学短期大学部） 青山 智恵（ケンブリッジ大学英語検定機構） 2) 「英語習熟度の低い大学生が描く英語教師像—教師の自己省察の一助として—」 牧野 眞貴（近畿大学） 4. シンポジウム 「言語教師認知研究と英語教育」 中村 香恵子（北海道科学大学） 笹島 茂（東洋英和女学院大学） 河合 靖（北海道大学） 志村 昭暢（北海道教育大学）
成果	1) 支部会員には 3 月発行の『支部ニューズレター』で報告した。 2) 支部ホームページに報告を掲載した。 3) 支部大会で発表された研究成果や知見は会員の研究活動に有益であった。

(2) 講演会の開催

名称	
日時	平成 年 月 日
場所	
目的	
対象	
規模	人
広報	
内容	
成果	

(3) 支部研究会の開催

名称	2015 年度北海道支部研究会
日時	①平成 27 年 5 月 23 日 ②平成 27 年 10 月 17 日 ③平成 28 年 3 月 6 日
場所	①北海学園大学 ②北海道武蔵女子短期大学 ③札幌市立大学サテライトキャンパス
目的	大学英語教育及び関連分野の理論、その実践に関する調査・研究の発表を行うことを目的として実施した。
対象	支部会員、その他の英語教育関係者
規模	各 50 人程度
広報	1) 支部会員には支部ホームページを通じて広報を行った。 2) 支部会員以外の会員とその他の英語教育関係者に対しては、支部ホームページと英語教育関係団体のメーリングリスト等を通じて宣伝した。
内容	①【研究発表】「日本人英語学習者を対象とした語用論的定型表現知識尺度」 大木七帆（北海学園大学大学院） 【統計ワークショップ】「 t 検定によるその平均値の差の判定に間違いはないか～分布と区間推定のはなし」 長谷川聡（北海道医療大学） ②【研究発表 1】「Blending Technology and TBLT: The Otaru University of Commerce Blended Learning Project」 John Thurman (Otaru University of Commerce) 【研究発表 2】「英文読解方略、動機づけ、学習観の社会文脈的考察：生態学的アプローチの枠組みから」 松本広幸(北海学園大学) 【研究発表 3】「JACET 北海道支部 CCR 研究会の歴史」 志村昭暢（北海道教育大学） 横山吉樹（北海道教育大学） 河合靖（北海道大学） 酒井優子（北海道札幌国際情報高校） 片桐徳昭（北海道教育大学） ③【研究発表 1】「中学校改訂版教科書のタスク性に基づく比較」 志村 昭暢（北海道教育大学札幌校） 中村 洋（寿都町立寿都中学校）

	照山 秀一（石狩市立聚富小学校） 【研究発表 2】 「生徒の心を動かす、教科書を活用した授業の実践」 小野 祥康（北海道教育大学附属旭川中学校） 【研究発表 3】 「日本語教師教育科目で言語調整について学んだ学生の追跡調査—外国人観光客のための『やさしい日本語』を用いた展示作成の試みを例にして—」 伊藤（横山）美紀（北海道教育大学函館校） 【研究発表 4】 「フォニックス指導が読解・多読に与える影響 — 読むスピードと内容理解を中心として —」 川村 明美（東京国際大学） 松林 世志子（東京国際大学） 【シンポジウム】 「アジアの英語教育」 司会：石塚 博規（北海道教育大学旭川校） 発表 1：「香港のイマージョン教育について」 横山 吉樹（北海道教育大学札幌校） 発表 2：「多言語社会香港に育つ日英バイリンガルの作文力」 佐野 愛子（北海道文教大学） 発表 3：「English Language Teaching in Indonesia」 Sari Wurandari（北海道教育大学札幌校国費留学教員研修生 ／Budi Mulia Dua Elementary School） 発表 4：「Foreign Teacher's Perspective on English Education in Japan: The Importance of "LowTech" Communication Skills in the High Tech Society of the 21st Century」 Charles McLarty（北海道情報大学）
成果	1) 支部会員には 3 月発行の『支部ニューズレター』で報告した。 2) 支部ホームページに報告を掲載した。 3) 支部大会で発表された研究成果や知見は会員の研究活動に有益であった。

Ⅱ. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2 号事業）

(1) 『支部紀要』 号の刊行

名称	『北海道支部紀要』第 13 号
日時	平成 28 年 3 月発行予定（未刊行）
目的	1) 支部会員の学術研究を奨励する。 2) 質的研究や量的研究など様々な観点に基づく研究論文、教育論文の 2 つの分野の成果を発表する機会を提供する。
対象	支部会員・支部の英語教育関係諸団体
規模	B5 サイズ 80 ページ 200 冊を予定
内容	投稿規程は北海道支部ホームページと紀要 12 号巻末に掲載した。ホームページには応募要領と投稿規程を掲載し、投稿を促進した。
成果	紀要編集委員会ならびに研究企画委員会は、会員の投稿を促すために案内や督促を行ったが、結果的に会員からの投稿はなかった。よって今年度の支部紀要は発行できなかったが、今年度の反省を踏まえ、来年度の発行に向けて対策を鋭意検討中である。

(2) 支部ニューズレターの刊行

名称	『JACET 北海道支部ニューズレター』 29 号
日時	平成 28 年 3 月 31 日
目的	支部活動の動向や支部会員への英語教育に関する情報提供と情報交換を行う。
対象	支部会員と支部の英語教育諸団体
規模	PDF として支部ホームページに掲載すると共に、本部・各支部送付用に印刷した。
内容	支部長挨拶、支部大会報告、研究会報告、委員会報告、その他英語教育関連事項を掲載した。
成果	支部の最新動向を支部会員に知らせることで帰属意識の向上が見られた。

Ⅲ. その他 (5 号事業)

(1) 支部総会の開催

名称	2015 年度北海道支部総会
日時	平成 27 年 7 月 4 日
場所	ニセコ町（ニセコ町民センター）
目的	支部の運営について会員に報告、2016 年度の活動計画を示した。
対象	支部会員
内容	2016 年度事業計画、2016 年 JACET 国際大会（北海道支部担当）、2016 年度人事案、2015 年度事業報告を行い、その概要をホームページに掲載した。
成果	支部会員に運営についての動向を知らせ、審議することで円滑な支部運営が期待できると共に、会員の帰属意識を向上させた。

(2) 支部役員会の開催

名称	2015 年北海道支部役員会
日時	①2015 年 5 月 9 日 ②2015 年 7 月 11 日 ③2016 年 1 月 30 日
場所	①北星学園大学 ②北星学園大学 ③北星学園大学
目的	支部運営について役員が審議した。
対象	支部役員
内容	支部大会の運営方法、研究会の運営方法、2016 年度事業計画、人事案、ホームページの内容と更新について検討を行った
成果	円滑な支部運営に貢献した。